

2023年度 日本工学院専門学校											
電子・電気科/電気工事コース											
第一種電気工事士実技											
対象	2年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	60	単位	2
担当教員	内田寿彦			実務 経験	有	職種	電子・電気科 専任教員				
担当教員紹介											
<p>日本工学院専門学校卒業後、総合電気設備工事会社にて一般住宅からビル・マンション・工場の内線工事に従事。職長を経験後、施工管理技士として主に大手建設会社やデベロッパーから受注した現場の施工管理業務を行う。</p> <p>自営である住宅設備会社に転職後は大手都市ガス会社の委託業務の他、屋内電気配線工事や住宅リフォーム・住宅設備機器の販売や管理業務に従事。同時に日本工学院専門学校電子・電気科の非常勤講師を兼任。専任教員として転職後は主に電気工事実習や高圧電気技術などの科目を担当。</p>											
授業概要											
<p>この科目を受講する学生は、国家資格であり電気工事業界でも上級資格である第一種電気工事士取得に向けた技能試験合格の為のノウハウを習得する事が目的となります。専門的な電気工事材料のや専用工具への理解が必要になります。国家試験の実施は年1回であり、受験日に向けた取り組みが求められます。試験実施機関より公表される技能試験問題（10問）をすべて理解し時間内に完成し、欠陥の無い作品を完成させるための授業内容となる。写真やテキストだけでなく技能試験課題を繰り返し演習する事で理解を深め、試験合格を目指すのが狙いです。</p>											
到達目標											
<p>この科目では、学生が電気工事業界から求めら、今後進むべき「第一種電気工事士」としての技能試験合格が求められます。受験資格を得ることが出来た筆記試験合格者のみが技能試験を受験する事が出来ます。筆記試験合格者は技能試験の1度での合格を目指します。筆記試験不合格者は、来年度以降の筆記・技能試験合格の為の準備として演習を行います。試験合格後免状発行には3年間の実務経験が必要なので、その後の現場経験に活かせるような基礎知識の習得が目標となります。また業務活動を行うための必要な技術を理解することを目標にしている。</p>											
授業方法											
<p>この授業では、国家試験のため個人ワークが中心となります。国家試験に精通した教師・講師陣と連携し、実際の判定作業や試験時間・会場に合わせた内容で演習を行います。授業中での行動を通じて、学生の「国家資格取得に対する意識」を育成していく。この授業に主体的に参加する学生が、自分自身の実力で資格取得できるようになることを目指す。</p>											
成績評価方法											
試験	60%	試験と課題を総合的に評価する									
課題	30%	授業内容の理解度を確認するために実施する									
平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する									
履修上の注意											
<p>この授業では、時間・正確さ・観察能力を重視する。国家試験受験の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。</p>											
教科書教材											
毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。											
回数	授業計画										
第1回	技能試験の実施について理解する										
第2回	使用材料・工具について演習を行い理解する										
第3回	基本作業について演習を行い理解する										
第4回	公表問題について演習を行い理解する										
第5回	公表問題の演習を行い理解する										

2023年度 日本工学院専門学校	
電子・電気科/電気工事コース	
第一種電気工事士実技	
第6回	公表問題の演習を行い理解する
第7回	公表問題の演習を行い理解する
第8回	公表問題の演習を行い理解する
第9回	公表問題の演習を行い理解する
第10回	公表問題の演習を行い理解する
第11回	公表問題の演習を行い理解する
第12回	公表問題の演習を行い理解する
第13回	公表問題の演習を行い理解する
第14回	公表問題の演習を行い理解する
第15回	全体のまとめ